

とむろいし
戸室石だより

土塀の石垣のように、みんなで、暖かい病院を！ 発行：金沢医療センター編集委員会

新しい時代のよりよい医療推進のために

—地域医療連携と不整脈診療を中心に—

地域医療連携室長 循環器科医長 阪上 学



昨年12月より前任の川原皮膚科医長のあとを引き継ぎ、地域医療連携室長に任命されました。私にとっては重責ではありますがよろしくお願ひします。さて、最近の報道でもありましたが、日本ではいよいよ人口の減少がはじまり、総医療費の抑制政策や個人医療費負担の増加、地方での医師不足など医療をとりまく環境がどんどん複雑化してくる中で、ますます個人の満足度の高い医療が求められる時代になってきました。医療をうける側の立場に立てば、普段の体調管理からより高度な医療までのすべてを一人の先生に任せることができるのが理想かも知れませんが、必ずしも効率的な医療ができるとは限りません。これらを解決していく重要なシステムが地域医療連携だと考えています。当院を受診される患者さんの中には「〇〇病院に通院中だったが、あそこの先生は頻回に変わられて、治療方針もころころ変わるし・・・」とおっしゃる方も決して少なくありません。病院への通院だけでなく、普段からの状態を十分把握していただける「かかりつけ医」をもっていただくことが、ご本人のためにも理想的ではないかと思われまふ。また、病院で入院診療が一段落しても、在宅や介護といった場所での治療の継続が必要な場合があり、この橋渡しがスムーズにいく必要があります。このようなシステムを効率よく実りあるものにしていくためには、コンピューターでいう「ハブ」の役目を果たす場所が必要であり、これが連携室の最も重要な仕事と考えています。さらに今後は現在問題となっている生活習慣病を克服していく意味でも、地域の中での健康づくり（栄養指導や運動指導）などでも開かれた病院になっていく必要があると思われまふが、この面でも地域連携室が軸となって活動し、文字通り病院と地域とが密接なつながりをもって、理想的な医療を展開できればと考えています。よろしくお願ひします。さて、私の医師としての本職である循環器疾患、その中でも不整脈診療に関して少し触れさせていただきます。近年の不整脈の治療には目覚ましい進歩があり、通常の薬の治療以外に、血管を通して心臓の不整脈を治療するカテーテル焼灼術（アブレーション）やペースメーカー治療、睡眠時無呼吸症候群による治療など多角的な治療戦略をとることができるようになりました。当院ではこれらの治療のほとんどを行うことが可能であり、個人の病態に応じたテーラーメイドの診療を実施しています。2005年4月以来56件のカテーテル焼灼術、40件のペースメーカー移植術を実施し、そのほとんどは県内外からの病院・診療所から紹介していただいたものです。今後ともますます信頼していただけるように努力したいと考えています。

インフルエンザについて

インフルエンザの季節です。昨年も猛威をふるったインフルエンザですが、今年も流行が予想されます。そこで呼吸器科医長北先生にインフルエンザ対策についてお聞きしてみました。

Q1：インフルエンザにかからないためにはどうすればよいのですか？

予防の基本は、流行前にワクチン接種を受けることです。インフルエンザにかかった場合の重症化防止の方法として有効です。インフルエンザは、インフルエンザにかかった人の咳（せき）、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウィルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染します。インフルエンザが流行してきたら、特に高齢者や慢性疾患を持っている人や、疲れていたり、睡眠不足の人は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。外出時はマスクを着用し、室内では適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。帰宅時のうがいや手洗いも重要です。

Q2：インフルエンザにかかったらどうすればよいのですか？

- ・インフルエンザの場合は、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身の症状が強くあらわれる点が、普通のかぜと異なります。症状があらわれたら、単なるかぜだと軽く考えずに、早めに医療機関を受診して治療を受けましょう。
- ・安静にして休養をとりましょう。特に睡眠を十分にとることが大切です。
- ・水分を十分に補給しましょう。お茶、ジュース、スープなど飲みたいもので結構です。

お分かりいただけただけでしょうか？ 北先生の言われた予防法を実践していただいてインフルエンザにかからないようにしましょう。また、不幸にしてインフルエンザにかかってしまった場合は早目に医療機関を受診しましょう。

糖尿病バイキングの話題

第45回 糖尿病バイキングが、昨年12月13日に金沢医療センター 2階 地域研修センターにて開催されました。今回の参加者は45名でした。糖尿病治療の基礎となる食事療法をより正しく理解し、家庭で食事療法が実践できるようになることを目的として企画されました。今回のメニューは、雑煮・細巻・おでん・うざく・カナッペなど全27品です。食品交換表に基づき、医師の指示食事量になるように食品の組み合わせや食事量を、実際の料理をつかって体験学習しました。



年末年始は会食や来客などにより、とかく食べ過ぎになりがちです。

新年を健康に迎えるためにも、食事療法のポイントである量とバランスを把握する実践活動は重要です。

食事療法は、生活管理であり、糖尿病治療そのものです。『食事療法を制する者は糖尿病を制する』ともいわれています。

現在、糖尿病バイキングは、年3回開催しています。内科外来や各病棟掲示板にて随時ご案内しておりますので、ご確認ください。次回は3月の予定です。参加をお待ちしております。尚、糖尿病バイキングに関しては、内科外来または栄養管理室までお問い合わせ下さい。（栄養管理室 緒川陽子）

疼痛緩和チーム、感染制御チームについて

当院のような大きな病院では多くの科があります。しかし、実際の診療には科という単位をまたいで解決しなければならない問題も多くあり、大病院ほどその問題が大きくクローズアップされてきます。その中で当院でも『疼痛緩和』、『感染制御』という病院全体で取り組む必要のある問題についてチームが結成されました。看板が出ているわけではないので皆様にはあまり知られていないと思いますが、この大事なチームについて担当部署のスタッフに紹介をしていただきました。

癌の痛みからの解放を願って

がんの痛みは様々な原因で生じ、苦痛の最たるものですが、適切な治療で痛みをなくすることができるようになってきました。世界保健機構(WHO)方式に従って、医療用麻薬や非ステロイド性鎮痛薬などを適切にしようすることで多くの方が痛みから解放され、日常生活を過ごせるようになってきました。

当院でも江戸雅香子看護師が“がん性疼痛看護認定看護師”の資格を取得したことを受けて、昨年4月から本格的な活動を始めています。毎週月曜日の午後に、依頼のあった病棟に伺って痛みを悩む方々の相談に乗っています。治療の第一歩は、患者さんの訴えをよく聴く事です。患者さんは、治療の効果を判定する立場にあり“疼痛緩和チームの主演”なのです。その上で、医師と薬剤師、認定看護師がそれぞれ専門知識を出し合って、その方に最適と思われる治療法を提案させていただきます。幸い、痛みから解放され喜んで頂ける事もあれば、中々上手くいかない場合もあり、悩みながら活動しています。

これからも、がんの痛みからの解放を願って、フットワークとチームワークの良い活動を続けたいと考えています。痛みでお悩みの方がおられましたら、気軽にご相談下さい。

がん疼痛対策チーム (放射線科医長) 齊藤 泰雄

私は現在「がん性疼痛看護認定看護師」として、がんの痛みを抱えていらっしゃる患者さんを訪問してお話しを伺い、痛みの原因を考えたり効果的な治療を検討するなどの活動をしています。皆さんは「がんの痛みは仕方がない」と思っていないですか？実はがん性疼痛は、早い段階から正しく鎮痛薬を用いることによって80~90%コントロールが可能だということが国際レベルで証明されています。痛みは非常に主観的な感覚のため、痛み治療の出発点は患者さん御自身の訴えになります。がんの痛みや治療に関するご質問等がありましたら、スタッフを通じてお気軽にお尋ねください。

がん性疼痛看護認定看護師 江戸 雅香子

当院には院長の諮問機関として感染管理委員会があり、私はその下部組織である感染管理チーム(ICT)に所属し活動を行っています。

感染管理看護師の役割は感染症の発生を未然に予防することと、感染率の低減に伴う医療・ケアの質向上を目指しコンサルテーション(感染管理に関する処置や予防策などについての相談を受け、状況に応じた的確な助言を行う)や職業感染防止、感染管理教育などであり、「組織横断的に活動する」ことが特徴です。専任として四苦八苦しながらもICTのメンバーをはじめ周囲に支えられ活動しています。

感染管理認定看護師 西原 寿代

ニッタ先生の神経百話

(第10回) 今年成年、走れ矢走れ病院へ、記録達成3時間(脳卒中シリーズ4)



今年も皆様にとってよい年になりますように、願っております。

さて、おめでたい新年ですのでよいお話をお届けします。昨年、脳梗塞のいいお薬がようやく日本でも使えるようになりました。すでに心筋梗塞では広く使われており、脳血管の血栓を溶かしてくれるというすぐれもの。しかも静脈点滴なので楽です。ですが、この薬、副作用の方も無視できません。いちばん怖いのは、脳出血（命に関わる場合もあり）です。なので、重大な副作用を起こさないために以下のような多くの制限があります。

発病から病室での点滴開始まで3時間以内

頭部CT検査で異常がまだ出ていない

けいれん、出血、異常高血圧がない

血液異常、重大な肝障害・血糖異常、膵炎がない

以前に頭蓋内出血がない

最近の脳梗塞、頭部・脊髄のけがや手術、消化器出血・尿出血、大手術や重症のけががない

上記の方には使用可能です（これ以外にもまだ制限がありますが）。途中から症状が急速によくなっている方や、軽症の方は必要ありません。とにかく、点滴開始まで3時間以内です。たとえば、目覚めたときからおかしい場合は、発病は目覚めたときではありません。眠っている間になったのですから、発病は昨日の寝た時間（お元気がだったことを確認できる最終時間）になり、3時間以上経っていますので、このお薬は使えません。事前にお薬の説明を行い、了解いただいた場合にのみ点滴を行います。なお、このお薬が使えなくても、これまでと同様の脳梗塞の治療を行いますので御安心ください。

今年も成年ですが、脳卒中が疑われたときは、とにかく早く病院へ走りましょう。

って、病院での薬剤採用の申し込み途中です。皆様、もうしばらくお待ちくださいませ。

カンガルーケア ～母子の出会いの瞬間～

（患者様から許可をいただき掲載しております。）

カンガルーがおなかの袋に赤ちゃんを入れて育てるように、生まれたての赤ちゃんを裸のまま、お母さんの胸に包み込むように抱っこすることをカンガルーケアといいます。生まれてすぐ大きな声で泣いた赤ちゃんは、お母さんの胸の上に抱っこされると安心して泣きやみ、しっかりと目を開けてお母さんを見つめ、自分の力で乳首を探し一生懸命おっぱいに吸いつきます。生命の力強さを感じる瞬間です。「母親としての実感がわいた」「すぐに赤ちゃんを抱っこできて安心した」と、お母さん方からも喜びの声が聞かれます。カンガルーケアは母乳の分泌を促し、母子のきずなを深めるなどさまざまな利点をもたらしています。



中4病棟では母乳育児推進の一環として、2年前より正常分娩の方を対象にカンガルーケアを行ってきましたが、8月より帝王切開での出生直後のカンガルーケアも導入しました。生まれたての赤ちゃんを愛しそうに見つめる母、そのまなざしに答えるかのように母を見つめる赤ちゃん。手術中とは思えないほどお母さんの表情が和らぎ、おっぱいを吸い出す赤ちゃんにお母さんもスタッフも感激しました。すべての母子にこのすばらしい出会いの瞬間を提供すること、それが私たちの重要な役目であると実感しました。

第7回院内コンサート 内科 伊勢拓之

平成17年12月19日、講堂にて7回目の院内コンサートが開かれました。普段は薬局前のロビーを会場としていますが、今回はゲストを招いてのクリスマスコンサートとなりました。第1部は金沢サクソフォンアンサンブルの西田重勝さん、大上雅史さん、杉森公一さんに内科の石倉先生が加わり、クリスマスイブ、アメイジンググレイス、きよしこの夜などお馴染みの曲が艶やかなサクソフォンカルテットに変身。その迫力に思わず引き込まれました。第2部はバロック〜ルネッサンス音楽を主に演奏する声楽アンサンブル「La Musica」をお迎えし、ラヂッチ・エヴァさんの指揮で世界のクリスマスソングを歌っていただきました。ショー仕立ての楽しい演出にも目を奪われましたが、どの曲も美しく磨かれ個性を放っていることに感動しました。脳神経外科の正印先生もテナーの一員としてハーモニーに加わりました。このように病院スタッフが演奏に参加するコンサートは、皆様との音楽を通じた交流を目指して、他にない試みとして平成16年6月から開催してきました。これまで続けてこられたのは、音楽経験のあるスタッフが偶然居合わせただけでなく、その知人や家族、さらにはコンサートを聴いて趣旨に賛同された一般の方までが快くボランティアで出演して下さったおかげです。これからも出演者を院内外から募集しますので、よろしくお願いいたします。(内科 伊勢拓之)



金沢サクソフォン・アンサンブル



声楽アンサンブル「La Musica」

第1回 金沢医療センター附属金沢看護学校 『立志のつどい』を開催して

金沢医療センター附属金沢看護学校

看護教員 水島由美

看護学校といえば『戴帽式』が看護の歴史を継承していくセレモニーとして長い間続いていました。しかし、近年、全国的にナースキャップが廃止される傾向にあり、『戴帽式』の名前が現状に合わなくなってきました。そうした背景の中、当校でも教員と学生が話し合いを重ね、戴帽式に代わる「立志のつどい」を行うことになりました。

こうして第1回 金沢医療センター附属金沢看護学校『立志のつどい』が平成17年10月21日(金)に開催されました。当日は学校職員をはじめ、多くの方々にご参列いただきました。

『立志のつどい』ではまず学生全員でナイチンゲール誓詞を朗読し、次に実行委員がクラス全員の決意を込めた『誓いの言葉』を宣誓しました。最後に木田学校長から学生一人一人に激励の言葉があり、硬い握手を交わしました。和やかな雰囲気の中でつどいは無事終了しました。

午後は記念イベントとして『看護を語る会』が行われ、『共に語る看護』というテーマでそれぞれの『看護』について考えるひとときを過ごしました。また、記念講演として、卒業生の高橋和子氏に『看護を語る』というテーマでご講演いただきました。

『立志のつどい』を終え、初めての臨地実習に向かう学生の初々しい姿を見て、私自身も初心に戻る良い機会となりました。



自動体外式除細動器 (AED) について

循環器科 佐伯 隆広

従来の電氣的除細動器に加え、当院へ新たに5台の自動体外式除細動器 (AED) が設置されました。AEDは簡便で迅速に心室細動 (一部の心室頻拍) を治療できる医療機器で、2004年7月より一般市民にもその使用が認められており、今後は公共施設など多くの人が集まる場所に順次設置されていくと思われまます。心室細動は心臓が痙攣を起こしてポンプ機能がマヒしてしまう不整脈です。患者さんはこの不整脈に陥ると、脳血流が途絶え意識を失い、数秒で呼吸停止し、やがて死に到ります。唯一の治療法は電気ショックであり、患者さんを救命できるかどうかの最大のカギは“電気ショックをかけるまでに要する時間”です。1分間電気ショックが遅れるだけで、救命率が10%下がるともいわれ、5分以上経過すると救命率は極めて低くなります。これまで心室細動患者さんが発生した場合、心電図を記録し、心室細動を確認し、救急部や集中治療室、心臓病棟などより電氣的除細動器を運んできて電気ショックを施行していました。そのため患者さんが倒れた場所や時間帯によっては電気ショックがどうしても遅れる可能性がありました。AEDは特殊なパッチを患者さんに貼り付けるだけで、自動的に心電図を診断し、必要であれば音声ガイドで電気ショックを誰でも簡単に施行できます。病院内にも多くのAEDを設置することにより、より迅速な電気ショックが可能となり、救命率の上昇が期待できます。当院では、今後もより確実に安全な医療をめざすとともに、一般の方へのAEDの使用についても啓蒙に努めていきたいと考えています。



新しくなったガンマーカメラとCT

第二放射線科医長 多田 明

- 1、安心で負担の少ないSPECT (シーメンスのE-CAM) ; ガンマーカメラが更新されました、最近話題になっているペット (PET) ではなくて、従来から広く行われています骨スキャンや心筋スキャンを行うための装置です。日常的に行われる約30種類の核医学検査に対応できますが、今回の新しい装置では、特に心筋SPECT、心電図同期心筋SPECTの検査時間が短縮できると期待されます。
- 2、2台目のCTも4列マルチスライスCT (東芝のAsteion) ; 当院のCT装置は従来から2台の体制でした。ヘリカルCTはりんごの皮を連続して細く剥くようにして連続回転して撮影しますが、さらにマルチスライスCT (MDCT) では、薄い断層を多層で連続して撮影することで、検査時間の短縮と解剖学的な解像度が飛躍的に改善されました。2台のMDCT装置によって、普段はより多くの患者さんの検査依頼に対応できますし、開業医さんからの検査依頼にもすばやく対応できるようになります。さらに金沢医療センターでは、複数の放射線科専門医が外来患者さんの画像検査に対して適切な報告書を作成しておりますので、検査だけのご利用にも対応できます。

外来担当医一覧表

平成18年1月

診療科目	診療時間	【初診受付時間】午前8時30分～11時30分					備考
		月	火	水	木	金	
内科	初診	吉村	吉尾	伊勢/長岡	北	周藤	水曜日:初診は隔週交代です
	初診(消化器)	太田	高田	松田(尚)	松田(耕)	大原	禁煙外来:月、水曜日(14:00～)
	内分泌・代謝①	能登	長岡	能登	石倉	長岡	糖尿病教室:毎週月曜日(14:00～15:00)
	内分泌・代謝②		(能登)	石倉			高血圧教室:第2水曜日
	腎・膠原病	伊勢	伊勢	木田	吉村	吉村	
	血液	吉尾			周藤	吉尾・池ヶ谷	第1・5金曜日 吉尾、第2・3・4金曜日 池ヶ谷
	呼吸器	北	良元	北	犬塚	良元	
	消化器①	森本	太田	森本	太田	森本	
消化器②	松田(尚)	松田(耕)	足立	*足立	高田	*キャリア外来	
精神科		坂井	小室	坂井	小室	坂井	
小児科	一診	奥田	市村	奥田	酒詰	奥田	予防接種:火、木曜日14:00～16:00
	二診	西田/市村	西田	脇坂	脇坂	齊藤(剛)	
	(午後) 特殊	慢性疾患・発達 奥田	1ヶ月検診・発達 奥田	アレルギー・慢性疾患 奥田/市村	乳児検診・発達 奥田	循環器(午前・午後) 酒詰	午後の診察時間(特殊外来のみ) 月、水15:00～16:00・火、木14:00～16:00
	特殊		内分泌 西田	小児神経 脇坂	慢性疾患 酒詰/脇坂		
外科	一診	桐山	初診のみ	桐山	初診のみ	桐山	
	二診	黒阪	(当番医)	小島	(当番医)	小島	
	三診	竹川		竹川		竹川	
	五診	道場		道場		道場	
	六診	田村		船木		佐々木	
	七診	道輪	(手術日)	黒阪	(手術日)	道輪	
	乳腺外来	道輪		桐山		竹川	
整形外科	一診	末吉	末吉	初診のみ	米澤	初診のみ	スポーツ外来:第2・4火曜日(15:30～16:30)
	二診	米澤	米澤	(当番医)	末吉	(当番医)	
	三診	白井	白井		白井		
	四診	林	多田	(手術日)	林	(手術日)	
脳神経外科	一診	池田	池田	当番医	池田	正印	月、水、金曜日:手術日
	二診	赤池	正印/赤池	(手術日)	正印	赤池	火曜日二診は、一週交代です。(10:00～) 木(14:00～)パーキンソン病外来(要予約)
神経内科		新田	池田(篤)	新田	池田(篤)	新田	火:物忘れ外来(午前・要予約) 水:頭痛外来(午前)
循環器科	一診	関口	中村	[初]阪上	中村	[初]中村	[初]=初診
	二診	佐伯	阪上	武田	阪上	武田	
	三診		佐伯		関口		
心臓血管外科	一診	佐々木	遠藤	佐々木	遠藤	佐々木	月、水、金曜日:手術日
	二診		川上		松本(康)		
	三診	(手術日)	松本(康)	(手術日)	笠島	(手術日)	
皮膚科	初診/再診	島田	村田	島田	村田	島田	
	再診	村田	島田	村田	島田	村田	
	再診	当番医				当番医	
泌尿器科	一診	越田	越田	勝見	石浦	越田	ED外来:第2・4木曜日、ストマー外来第2月曜日
	二診	杉本	杉本	石浦	杉本	石浦	
		(手術日)		(手術日)		(手術日)	
産婦人科	一診	丹後	瀬戸	丹後	金谷	瀬戸	妊産婦健診:午前(月～金)及び月、金曜日午後
	二診	金谷	当番医	瀬戸	当番医	金谷	
	三診	谷田部		谷田部		谷田部	
	四診	瀬戸	(手術日)	金谷	(手術日)	丹後	
眼科	一診	安藤	安藤	安藤	安藤	安藤	コンタクトレンズ:月、水曜日(13:00～15:00)
	二診	高橋	高橋	高橋	高橋	高橋	火、木曜日:手術日
耳鼻咽喉科	一診	瀧口	瀧口	瀧口	瀧口	瀧口	いびき:火曜日(14:00～15:00)
	二診	巽	巽	巽	巽	巽	平衡:火、木曜日(15:00～16:00) 月、水、金曜日:手術日
放射線科	一診	斎藤	多田		多田	斎藤	照射の依頼:毎日可
	(超音波)	小林	多田・小林	大久保	多田・大久保	俵原	
歯科口腔外科	初診/再診	中尾	窪田	窪田	初診のみ	窪田	火、木曜日:手術日
	再診	窪田	北原	中尾	(当番医)	中尾	
	再診		(手術日)	北原	(手術日)	北原	
麻酔科	一診	岸槌	岸槌		岸槌	岸槌	ペインクリニック、術前診察:午前中
	二診	横山	野竹			太田	

※ 特殊外来及び午後外来は、予約が必要です。なお、急患については、終日受付します。
担当医は都合により変更となる場合がありますのでご了承願います。

コスモス広場

血管ドック

—全国テレビ放送—

去る17年11月18日(金)日本テレビ系列で、当院の『血管ドック』について、午前11時より「からだ元気科」という番組の中で、受付から病棟でのオリエンテーション、各科検査、食事、最後の総合診断説明まで詳しく紹介されました。

当日は、放送直後から全国視聴者の皆様から多数の問い合わせがあり、今年の5月中旬まで予約でいっぱい状況です。

《血管ドックご案内》

- ・検査実施日 毎週 水曜日9時 一泊入院 ～ 木曜日15時頃退院
- ・検査費用 157,500円(税込み)
保険適用外となりますので、全額自己負担となります。
- ・申し込み方法 電話にて申し込みを受けます。(予約制)
TEL076-262-4161
担当者 外来係長

詳細につきましては担当者の外来係長までお尋ね下さい。

金沢医療センターの理念

【理念】

私たちは、生命の尊さと人権を尊重し、高度で最良の医療をめざします。

【基本方針】

- 一、説明と同意に基づく信頼される医療をめざします。
- 一、臨床研究を行い、医学の進歩に貢献することをめざします。
- 一、病診連携を密にして、地域医療に貢献することをめざします。

パートの看護師さん募集中

- ・時給；1,240円
- ・勤務時間；週30時間以内
(時間、曜日は、応相談)
- ・採用日；相談に応じます
- ・待遇；各種保険有り
- ・有給休暇；規定により有り
- ・院内保育所完備

問合せ先：管理課給与係

(TEL: 076-203-4504)

編集後記；長らく「戸室石だより」の編集長を務めていただいた皮膚科川原先生が平成17年11月一杯で当院を退職されました。川原編集長は本号まで発案、編集、依頼原稿の回収と文字通り大車輪の活躍をされておりました。これまでのご苦勞に心から御礼申し上げます。

さて、次号より越田新編集長のもとでの紙面作りとなりますが、より良い紙面を目指して編集部一同決意も新たに頑張っております。皆様どうぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げます。(S.H.)

発行元：金沢医療センター (〒920-8650 石川県金沢市下石引町1番1号)

電話：076-262-4161 (18時以降の救急受付；076-262-4163)、FAX：076-222-2758

ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~knzwhosp/> Eメール admin@kanazawa.hosp.go.jp

地域医療連携室 (直通番号 076-262-4187、専用FAX 076-262-4188)

編集委員：石川倫子、井村政美、緒川陽子、川原 繁、阪上 亨、佐々木久雄、周藤英将、滝野 豊、西井佐織、西出一信、西村民子 (五十音順)